

学部長・研究科長からのメッセージ

～教育学部～ 教育学部長 猿田真嗣

実践力・応用力を兼ね備えた専門職の育成

常葉大学教育学部は、常葉学園大学の唯一の学部として、1980（昭和 55）年 4 月に静岡市瀬名の地に誕生しました。開設後しばらくは、初等教育課程による教員養成に注力しましたが、1998（平成 10）年には生涯学習学科、2004（平成 16）年には心理教育学科を開設するなど、専門性の幅を広げ、現在では 1 課程 2 学科に 1,080 名の収容定員を擁する大規模な学部で成長を遂げています。

あらゆる分野で、実践力・応用力を兼ね備えた人材が求められ、それらを培う機会の確保・提供が重要になってきました。教育学部でも、各免許・資格課程の中で、段階的に力量を高める実習科目を配置していますが、そのような教育活動には、地域の専門機関（学校や行政機関、文化・スポーツ・福祉などの施設・団体など）との連携・協力関係を欠くことができません。

関係各方面のお力添えのもと、地域のリソースを活用させていただきながら、教育実習をはじめとする「体験型授業」の一層の充実を図っています。

～外国語学部～ 外国語学部長 戸田裕司

真の国際人になるために、学ぶ。

英語圏やスペイン語・ブラジル語・韓国語・中国語圏の文化・歴史・社会を学んだうえで、各外国語の運用能力を獲得し、世界の人々とのコミュニケーション力を持った、国際社会に敬意を持って受け入れられる人間に成長することを目指しましょう。

本学部には「自らを知る機会（日本語教育科目）」「他を実体験する機会（海外語学研修・様々な留学制度）」があります。ここで、「他を受け入れる力」「自分を発信する力」「多様性の中で生き抜く力」を学び、真の国際人になることを期待します。

～造形学部～ 造形学部長 安武伸朗

産業と社会の課題に向き合い、人々に喜びを生み出すクリエイターを育成します

今、社会は第 4 次産業革命という大きな変化を迎えています。20 世紀まではモノづくりの時代。モノを中心に、どう作るか（How to）という知恵が大切でした。しかしデジタル技術の急速な進化と、SGDs に代表される持続可能な発展性を踏まえて、現代は何を作るのか（What）、なぜ作るのか（Why）が問われる時代となりました。人間を中心に豊かな体験を創造する知恵が必要になったのです。求められるのは、ゼロから 1 を生み出す創造性であり、データと感性、テクノロジーとビジネス、地域と地球、そしてアートとデザインなど、これまでは別と思われていた分野の垣根を超えて活動する人材です。

造形学部があなたに用意するのは、産業と社会のリアルな課題を捉えて、私たちの暮らしに嬉しい体験を生み出すためのプログラムです。表側に見えるのは、アトリエやラボで作品を創る授業や、地域のフィールドや Web で調査を繰り返す科目でしょう。しかしその裏側には、論理的な文章を作るロジカルシンキングの訓練や、仲間や地域の人々と議論を重ねるコミュニケーションの練習が隠されています。こうして、問う力、求める態度、動く体力という教養を身につけた上に、なぜ？なにを？どのように創るのかという専門的な力を学びます。

多様なプログラムを活用して、社会と人々に価値を生み出すクリエイティブな人生を手に入れるのはあなた自身です。

学部長・研究科長からのメッセージ

～法学部～ 法学部長 細川壯平

法学部長からのメッセージ

私達は皆、家族や友人達と共に、日々の生活を健康で楽しく平和に過ごしたいと願っています。しかし現実の人間社会は、その成立以来、病気や怪我で健康が損なわれ、隣人や隣国との対立で平和が破られるのが常でした。健康に暮らしたいとの願望が医学を発達させ、混乱のない社会で平穏に暮らしたいとの願望が法学を発展させてきました。

法は、親しい友人間や家族間、経済取引を行う企業間や地域社会の中などで、混乱や紛争が生じることを防止し、被害を負ったり弱い立場に置かれている人々を保護し、暴力や権力が濫用されることを抑制し、また、残念ながら紛争が生じてしまった時には、できるだけ迅速・合理的にそれらを解決することを目指して、秩序ある平穏な社会を実現するために、必要で根本的な約束事を定めたものです。

将来、公務員、企業人、有資格者となって社会の役に立ちたいと考えている諸君は、是非、公務員試験対策講座や法学・政策学に関する豊富な授業科目を用意している常葉大学法学部で学んでください。健闘を期待しています。

～健康科学部～ 健康科学部長 濱松加寸子

健康科学部長からのメッセージ

常葉大学健康科学部は看護学科と理学療法学科（リハビリテーション）で構成されています。いずれも超高齢社会である日本の保健・医療・福祉領域を支える重要な学科です。

4年間の学業修了時に国家試験受験資格を得て合格することでライセンスを獲得することができます。いわば実践者の育成となりますので、教育課程（カリキュラム）は充実している一方で、濃厚かつ過密です。ひとりひとりの学生が学業に専念し、また、キャンパスライフを実り豊かにするために教職員共々支援して参ります。

社会で活躍する際、地域住民をはじめ支援する対象に耳を傾け、現状に安住することなく、常に問題意識をもち自己研鑽できる基礎能力も養ってほしいと思っています。

卒業時点で、「常葉大学健康科学部で学んで良かった」と思えるように我々一同も努力していきます。

～経営学部～ 経営学部長 坂本眞一郎

経営学部で学びビジネスリーダーをめざそう

常葉大学経営学部は、経営学を中心に学ぶ学部です。経営学は、大学卒業後に多くの人が勤めることになる企業の進路とその運営を考える学問です。また今日では自治体のような公共機関や非営利の団体も経営学的視点で運営されています。その意味で経営学は働く人全てにとって非常に大事な学問であると言えるでしょう。

常葉大学は通いやすいように静岡草薙キャンパスと浜松キャンパスという静岡県内に2か所のキャンパスもっています。ここでは経営分野を深く学びながら、経営と関連が強い分野である会計・情報・経済の主要な内容を学びます。その際、静岡県内の企業や自治体からも講師をお招きしたり、時には県内企業を訪問することなどを通して、最新の企業経営や経済・政策の動向を認識できるようにしています。

このような学びにより、常葉の経営学部では、①「知」と「徳」を兼ね備え、②将来の困難な課題に取り組み、そして③地域社会の中核を担うことができる有能なビジネスリーダーになってもらうことを期待しています。

学部長・研究科長からのメッセージ

～健康プロデュース学部～ 健康プロデュース学部長 小野澤隆

知性」「技術」「教養」を備えた健康教育

今日までの健康を作り上げてきたのは近現代科学であり、その進歩を導いてきたのは、ほかならぬ知性です。しかし、社会構造の変化とともに健康に対して新たな論理も必要となっています。病気や怪我の予防、健康の回復・維持・促進、人間的成長を促す教育、そして避けてとおることのできない衰えといった連続性・相関性をおして総合的に人間の健康を考える視点です。健康を学ぶとは、突き詰めれば自分自身や人間について学ぶことでもあるのです。

本学部は、5学科（健康栄養、こども健康、心身マネジメント、健康鍼灸、健康柔道整復）からなりますが、それぞれの学科の専門知識と技術を身に付け、健全な人間観を持って健康について深く考え、人と接することのできる専門家・指導者を養成します。

～保健医療学部～ 保健医療学部長 磯貝 香

安心で確実な保健医療サービスの提供を目指して

医療技術の高度化、医療提供の場や医療に対するニーズの多様化、少子高齢化や核家族化の進展など、保健・医療・福祉を取り巻く環境は絶えず変化しています。これに伴い、理学療法・作業療法の分野では様々な種類の情報が数多く飛び交っています。

このような状況のなかでは、変化に柔軟に対応し、適正な情報を取捨選択する能力が必要とされます。そのため、高い使命感、徹底した医学的基礎知識、高度な専門知識と技術、そして論理的思考力を身に着けることが重要と考えます。

本学部で学ぶことで、真に必要とされる理学療法・作業療法を確実に提供できる人材に成長することを期待します。

～社会環境学部～ 社会環境学部長 石川雅典

「環境と防災」を学べるのは社会環境学部だけ。

今日は、地球環境問題や廃棄物問題など自然・生活環境問題の時代であるとともに、頻発する地震や、津波や台風による水害、散見される火山活動など自然災害に対する防災・減災が注目される時代です。

社会環境学部では、環境への配慮と再生、自然災害に対する防災・減災をメインテーマに、私たちと自然との向き合い方を理系・文系の多様な視点から考えます。授業では、これらの知識とスキルを歴史的・体系的に理解・修得し、学外での体験・実践活動を通して新たな問題や課題を発見するとともに解決の方法を探ります。

そして、持続可能な社会と私たちの安全・安心な暮らしのあり方を構想する力を身につけます。同じ志を持った仲間とともに学んでみませんか？

学部長・研究科長からのメッセージ

～保育学部～ 保育学部長 古橋和夫

幼児教育から保育者の資質、他者への包容力など、人格面の成長までを学ぶ。

保育士・幼稚園教諭を目指すみなさん、四年制の保育者養成機関として、高い知識や教養と技術、また、保育の専門的知識や実践力について学びます。

「人間性を育む教育」「障がい児教育・環境教育」「健康教育」「感性教育」の4つの理念のもと、総合的により深く学ぶことにより公平な判断力と高い人間性を養います。

1年次からのゼミでは、共同生活を通じてコミュニケーション能力と保育者としての心構えを養い、社会の求める保育者としての新たなニーズに対応できる人材の育成を目指します。

～国際言語文化研究科～ 国際言語文化研究科長 山田昌史

国際化時代のニーズに応えた 職業人と教育者を育成する

地球はどんどんボーダレスになっています。インターネットの急速な普及は、世界中のどこでも瞬時に情報のやりとりを可能にしました。国際化の波は、政治・経済・文化のすべてにおよび、もはや他国との関係なしでは成り立たなくなっています。

このような中、官庁・企業・学校など、あらゆる分野で国際的視野に立って問題解決にあたることができる専門家や職業人が求められるようになってきました。

本研究科ではこのような時代の要請に応え、わが国の国際化の担い手となる職業人、国際教育の専門家の育成を目指し、実践と理論の両面から教育・研究を行います。

- 1 実践的かつ幅広いカリキュラムの採用
- 2 多様なカリキュラムを支える教授陣の任用
- 3 長期履修制度など

学ぶ者の側に立って一人ひとりのニーズに合わせた取り組みを行っています。

～健康科学研究科～ 健康科学研究科長 横尾宏毅

保健・医療・福祉に寄与する深い知識と高い技術を備えた人材を育成

健康科学研究科は、健康な身体づくりを目指した「食」のケアと、住環境や社会環境の変化そして人間関係のストレスに起因する「心」のケアを目指して、地域住民の保健・医療・福祉の発展・活性化に貢献できる人材を養成することを目的とする。

学部長・研究科長からのメッセージ

～環境防災研究科～ 環境防災研究科長 池田浩敬

21世紀の新しい社会システムを構想できる人材の育成

世界はいま、さまざまな危機に直面しています。「少子高齢化」や「社会保障問題」などの社会的な危機、「地球温暖化」や「食料や資源の枯渇」などの地球環境をめぐる危機、東日本大震災でも経験した地震や津波、洪水などの自然災害の危機です。

世界がネットワーク化され、ヒト・モノ・情報の高速移動が可能になった現代、これらの危機はその発生が局所的であっても瞬時に地球規模に発展するリスクをはらんでいます。

21世紀は「危機の世紀」といっても過言ではありません。しかし、持続可能な社会を構築するには、単に危機からの命や暮らしの防衛といった“守り”の姿勢だけでは不十分です。

危機との共生やそれを契機とした新たな社会経済政策の展開など“攻め”の姿勢が重要となります。本研究科では、守りから攻めへ発想を転換し、新たな視点から環境や防災について研究します。

～初等教育高度実践研究科～ 初等教育高度実践研究科長 久米昭洋

理論と実践の融合」により高度の専門的な能力、優れた資質を有する教員を養成しています。

静岡県唯一の、小学校教育に特化した「教職大学院」です。教育現場が抱える問題への高度な対応力と、より実践的な教育力をもつ人材の育成を目的とします。

「理論と実践の融合」をめざし、県内の小中学校や教育機関と連携しながら教育・研究を行います。

<目指す院生像>

- ・現場に渦を巻き起こすダイナモ教員（現職教員学生）
- ・授業・学級づくりができる新人教員（学部卒学生）